

# 信州プレミアムカラマツの販路拡大について

県産材利用推進室

## 1 概要

本県を代表する樹種である信州カラマツは、昭和の初めに先人達の努力により植え、育てられ、80年以上の時を経て、全国に先駆けて大径材として生産、利用できる時代が到来した。

そこで、信州カラマツの特徴や強みを活かし、一定規格以上の丸太をブランド化することで、付加価値を高めて市場に流通させ、良質な大径材、高品質な製品としての利用を推進していく。

## 2 信州プレミアムカラマツの出荷状況

- 5月25日、「国際ウッドフェア2017」の会場において、「信州カラマツブランド化名称制定記念発表会」を開催し、「信州プレミアムカラマツ」を発表
- 10月16日、信州プレミアムカラマツの規格相当の出材に対し、材の格付けができるよう市場関係者の研修会を実施
- 10月25日、木曽官材市売協同組合が主催する記念市「第33回日本美林祭り」において「信州プレミアムカラマツ」33本・約22m<sup>3</sup>を初出荷。購入者の購買意欲の高まりにより、高値で取引



プレミアムカラマツ初出荷

【国有林材最高値：4m×38cm 38,600円/m<sup>3</sup>（霊仙寺山国有林（飯綱町）105年）】

【民有林材最高値：6m×30cm 32,000円/m<sup>3</sup>（小海町産 84年）】

- 落札された原木の9割は建築用材として加工され、その用途は、住宅の梁・桁材を主に、板材など余す所なく利用される予定。また、仏具材のヒメコマツの代替品としての利用が検討されるなど、新たな活用方法も期待
  - 11月20日の中信木材センターの定期市において、3本・約3m<sup>3</sup>を販売
- 【国有林材最高値：5m×48cm 36,000円/m<sup>3</sup>（前川国有林（乗鞍）88年）】

## 3 今後の取組

- ブランド材として流通させるための素材生産者・木材加工者・工務店等の「サプライチェーンの構築」
- 首都圏・中京圏等へ向けて信州カラマツの魅力（歴史・強度・美しさ・品質）を伝える「販売戦略の展開」
- 林業総合センターにおける、カラマツ大径材の強みを活かした心去り梁・桁などの「製品開発の推進」
- 消費者が安心して製品を選択する目安となる「商標の登録」



「あらかし工法」で使用したカラマツ梁材（イメージ）

## 4 期待される効果

- 良質材の価値を引き上げ、山元への還元を図ることによる、森林経営意欲の向上と、主伐及び確実な再生林の促進
- 県産カラマツ全体の需要の喚起



プレミアムカラマツ伐採